

社会経済的要因と小児齲蝕との関連

【背景】

社会経済的要因は、多くの慢性疾患と関連のあることは既に指摘されています。齲蝕も慢性疾患の一つです。社会経済的要因と齲蝕との関連に関する疫学研究は欧米で実施されたものがほとんどで、日本人小児を対象とした疫学研究は存在しません。今回、大阪母子保健研究のデータを活用して、親の社会経済的要因と小児齲蝕リスクとの関連について解析しました。

【方法】

大阪母子保健研究のベースライン調査、第1～4回追跡調査(生後 41～49 ヶ月時)に参加した494名のうち、口腔内診査を受けた315名を対象としました。未処置歯あるいは処置歯のいずれかがある場合、齲蝕ありと定義しました。性別、母親の年齢、妊娠中の母親の喫煙、母乳摂取期間、離乳食開始月齢、歯牙萌出月齢、歯磨き頻度、フッ化物使用の有無、歯科定期健診の有無、家庭内喫煙状況、口腔診査時月齢を交絡因子として補正しました。

【結果】

母親の就業状況(無職、職あり)、勤務形態(パートタイム、フルタイム)、職種(専門的・技術的職業、事務関連職、その他)、及び、家計の年収とう蝕リスクとは関連を認めませんでした。一方、母親及び父親の教育歴と齲蝕リスクとの間には、統計学的に有意な負の関連を認めました。

【結論】

今回の解析は、本邦においても、親の社会経済的要因と子の齲蝕リスクとの間には負の関連があることを認めました。さらに別の集団で確認する必要があります。

【出典】

Tanaka K, Miyake Y, Sasaki S, Hirota Y. Socioeconomic status and risk of dental caries in Japanese preschool children: the Osaka Maternal and child health study. J Public Health Dent. 2013; 73: 217-23.